

大会名 Competition	第23回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-108	Year Month Day Time 2010 年 5 月 4 日 10 : 35
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A	チーム B					
<b>延岡学園</b>	<b>興南高校</b>					
84 ○	59 ●					
<table border="1"> <tr><td>28 1st 15</td></tr> <tr><td>22 2nd 18</td></tr> <tr><td>18 3rd 11</td></tr> <tr><td>16 4th 15</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>		28 1st 15	22 2nd 18	18 3rd 11	16 4th 15	OT
28 1st 15						
22 2nd 18						
18 3rd 11						
16 4th 15						
OT						

主審:Referee 片寄 達 宮城県  
副審:Umpire 佐藤 匠 秋田県

テーブルオフィシャル:Table officials  
能 代

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	/	甲 斐 慶 彦	CAP	5	1	1	0	0	4	×	比 嘉 卓 斗	CAP	6	0	3	0	2
5	×	エリマン プイ		13	0	6	1	2	5	/	三 宅 力		0	0	0	0	1
6	/	大 和 倫 矩		0	0	0	0	1	6	×	伊 集 貴 也		19	3	5	0	4
7	×	黒 木 亮		8	0	4	0	1	7	×	平 得 文 士		2	0	1	0	3
8	/	脇 坂 恭 輔		4	0	2	0	0	8	/	渡 口 崇 秋		6	0	3	0	3
9	/	西 口 直 哉		0	0	0	0	0	9		友 寄 邦 人		-	-	-	-	0
10	/	山 田 省 吾		0	0	0	0	0	10		屋 我 貴 秀		-	-	-	-	0
11	×	岩 田 大 輝		4	0	2	0	1	11	×	上 原 大 輝		16	2	4	2	3
12	×	寺 原 拓 史		12	1	4	1	1	12		寄 川 龍 功		-	-	-	-	0
13	/	岡 本 飛 竜		2	0	0	2	0	13	×	嘉 数 潤 也		6	0	3	0	0
14	×	ベンドラメ礼生		21	4	4	1	1	14	/	鈴 木 裕 也		4	0	2	0	2
15	/	エルバジ・アッサン ジョ		9	0	4	1	1	15		仲 村 兼 太		-	-	-	-	0
16	/	田 中 駿 也		0	0	0	0	0	16		島 袋 大 輔		-	-	-	-	0
17	/	善 家 耕 太郎		2	0	1	0	0	17		仲 西 智 彦		-	-	-	-	0
18	/	平 岡 大 志		4	0	2	0	1	18	/	満 島 光 太郎		0	0	0	0	1
コーチ		北 郷 純一郎							コーチ		井 上 公 男						
Aコーチ		丸 岡 英 文							Aコーチ		狩 俣 暢 史						
合 計				84	6	30	6	8	合 計				59	5	21	2	19

※ ×:スター /:交代選手 PTS:ホイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

延岡学園は試合開始から#5 プイのローポストを基点にオフェンスを展開、興南はヘルプディフェンスで守ろうとするが、延岡はその隙に#14 ベンドラメの3Pや#12 寺原のドライブで加点していく。興南は組織的なオフェンスから鋭いドライブで延岡のディフェンスを突破するものの、ブロックショットを意識してかシュートの精度を欠き、15-6と延岡にリードを許す。粘り強いディフェンスからスティールを連発して食い下がろうとする興南だが、延岡はディフェンスを2-2-1ゾーンプレスに変えてミスを誘発、#14 ベンドラメが3Pやスティールと大活躍し、このピリオドだけで14得点。28-15と延岡がリードする。

第2ピリオドに入ると興南はディフェンスをゾーンに変えて前線からプレッシャーをかけ、オフェンスにもリズムが生まれる。#6 伊集の3Pを皮切りに、#11 上原や#13 嘉数が果敢に1対1を仕掛けて追い上げる。一気に追いつきたい興南だが、勝負所になると延岡#5 プイの高さが威力を発揮、要所でリバウンドをもぎとって得点につなげていく。50-33と延岡がリードを保って第2ピリオドを終える。

第3ピリオド、やや疲れの見える興南に対し、延岡はベンチからフレッシュな選手を次々と投入。豊富な運動量で速攻を繰り出し、#8 脇坂、#18 平岡らが活きのよいプレイを見せる。興南はディフェンスを頑張り何とか失点を抑えるものの、攻撃の糸口をつかむことができない。#11 上原が2本の3Pを決め孤軍奮闘するが、68-44と更にリードを広げられてしまう。

第4ピリオド、興南はアーリーオフェンスから#8 渡口、#14 鈴木がシュートをねじ込み、70-52と詰め寄り逆転のチャンスをつかむ。しかし延岡は#15 ジョブにボールを集め、ポストプレイやフリースローでリードを保つ。終盤になると興南は延岡の3-2ゾーンを攻め倦み、得点が止まってしまう。延岡は#4 甲斐の連続得点で興南を突き放し、84-59で試合終了。厚い選手層で最後まで運動量の落ちなかった延岡学園が快勝した。